

関東故銅

関東故銅市況、10月末の駆け込み売りで相場急騰も市中の荷動きは落ち着いた状態

関東の故銅市況は、銅建値が4万円と大幅に上昇するものの、問屋への売り込みに大きな変化はみられない。下落ムードの強まった10月末に問屋への駆け込み売りが起きていたからだ。

足もとのスクラップ専門問屋の市中買値(ロット物:5トン前後)は、代表品種だと、銅系は1号銅線(ピカ線)がトン当たり66万~67万円。上銅新くずは64万~65万円、上故銅は63万~64万円。伸銅2号は56万~58万円。黄銅系は黄銅削粉が45万~46万円。青銅系は並青銅鋳物塊50万5,000~51万円が中心値となっている。ロットが1

トン以下になると、これらの値段から2万円以上割安となっている。

伸銅、電線、産銅といったスクラップ需要家の購入意欲は減退しているものの、発生量も大きくは増えていないため、スクラップの需給バランスは拮抗している状態だ。現に、スクラップ問屋では、断り値をだすといった、購入抑制の動きはまったくみられない。もっとも集荷業者の方も10月末までに在庫を放出したため、売れるほど在庫がたまっておらず、銅相場の急騰とは裏腹に市中の荷動きはおとなしい。

銅スクラップ、11月の見通し  
橋本金属×アルミ 橋本健一郎氏

年末へ向け9000ドルへ  
国内は需給悪化の相場高

9月は伸銅品生産が前月に続き前月比で11.7%上昇するも前年の上昇率からは下落。駆け込み需要があったにも関わらず昨年の同期(+16%)より悪化したことから下振れが懸念される。9月自動車生産は前月比で+33.9%の92万台と大幅上昇するも前年同期の+45.2%からは大幅悪化し、エコカー補助金特需をもってしても悪化が否めない。また10月の自動車販売が19万3258台と大幅悪化。銅電線出荷量も前年同期からは改善しているがこちらも伸び悩み。

新設住宅着工数は前月比変わらずの7万2千戸台とこちらも伸び悩み。銅原料需要に関して

メーカーは10月からは一転、10月後半に建値73万と直近の最高値を付けたこと、円が80円台をつけたことによる売り込みが殺到し在庫は潤沢。

10月の自動車販売等の大幅悪化を受けて需給は飽和状態今後は当用買いに徹するとの予測。

銅価格は銅建値ベースの銅・合金スクラップは米民主党中間選挙大敗による、米追加景気対策・追加金融緩和策期待それに伴うドル安、また中国(安泰科)が2015年まで銅需要の堅調な上昇と1万ドルでも需給への影響はないとのコメントなどを受けてテクニカル買いが入りやすい状況にありLMEに関しては下値8000ドル上値8700ドル。

銅・銅合金スクラップに関しては円高も加味して銅建値で70-74万程度と予測している。

銅建値は2万円引き上げの76万円  
平均建値は74万8,000円に

JX日鉱  
日石金属

JX日鉱日石金属は10日、電気銅建値を2万円引き上げの76万円とし、同日から実施すると発表した。

これは海外銅相場が堅調に推移したことを受けて引き上げられたもので、このまま建値に変更が無ければ平均建値は74万8,000円となる。

10日入電のLME銅相場がセツルメントで8,844.5ドル、同日発表のTTSレート82.78円で換算した採算価格は73万2,100円、諸掛りは2万7,900円になる。今年の建値推移は次の通り。

(キロ当たり円、カッコ内は改定日)  
1月 = 730(4) 750(7) 720(14)  
730(20) 720(26) 平均 730.0

2月 = 660(1) 630(5) 660(12)  
680(17) 720(22) 平均 672.6  
3月 = 680(1) 700(3) 720(8) 700(16)  
720(19) 730(29) 平均 712.2  
4月 = 770(1) 790(7) 780(16)  
770(20) 平均 779.0  
5月 = 690(6) 640(18) 670(25) 平均 670.5  
6月 = 670(1) 640(4) 600(8)  
630(14) 650(17) 640(25) 平均 638.1  
7月 = 610(1) 630(8) 610(20)  
650(23) 660(27) 平均 630.0  
8月 = 670(2) 680(5) 660(11)  
670(18) 640(25) 平均 662.7